



# 三本木



令和7年12月9日(火)  
石垣市立白保小学校  
TEL: 86-7840  
FAX: 86-7396



## PTA環境整備作業

6日(土)に今年度3回目の環境整備作業を行いました。今回は草刈り作業および体育倉庫にテント機材を立てかける金具を事業部の方々に取り付けていただきました。ついでに倉庫の中もきれいに整理整頓を行いました。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

## 否定的な発言が多い子どもとの関わり

「本音」をさらけ出せずにいる子どもたちの中には自信を失い、否定的な発言が多く聽かれる場合があります。そのような場合、子どもに対してどんな言葉かけや関わりが求められるのでしょうか。それに対してヒントを与えてくれる心理的技法が「リフレーミング」です。

リフレーミングとは、物事や出来事、状況などの枠組み(フレーム)を変えることで別の視点(ポジティブな面)を持てるようになる心理学の技法です。否定的な言葉を肯定的な言葉に置き換えることで、自身を失った子どもの生きる力を大きくする事ができます。(下記に一例として示します)

うるさい	⇒ 活発な	がんこな	⇒ 意志が強い
怒りっぽい	⇒ 感受性が豊か	口が悪い	⇒ 率直な
しつこい	⇒ ねばり強い	負けず嫌い	⇒ 向上心がある
ルーズな	⇒ こだわらない	あきらめが悪い	⇒ 一途な
周りを気にする	⇒ 心配りができる		
のんきな	⇒ マイペースな・こだわりがない		
大人しい	⇒ 爭いが嫌い・協調性がある	など…	

リフレーミングの技法を用いることは、子どもの自己肯定感を高めることになり、「心の充電」を促す有効な手立てとなります。また、親の愛情を確かめるために、わざと反抗的な態度をとったり困らせたりする子どもも否定的な発言が多くなります。

現代社会において「子どもの声を聴き、子どもとのコミュニケーションを大事にする」そのような大人の姿勢が求められています。大人と子どもの相互の関わりが子どもの声を大切にする文化を育んでいくのです。



(気をつけたい「子どもの声」の聴き方

筑紫女学園大学: 大西 良准教授のコラムより一部抜粋)

## 命を大切に守りぬいていくために

11月30日(日)市民防災訓練と同日、地震・津波による避難訓練を実施しました。今回は「ユナムリ」まで避難せず、ゆらしていく広場までの避難でした。全員無事に避難した後、以下の話をしました。

○約250年前の「明和の大津波」で一番犠牲者が出了たのは白保村。

当時1500人以上の人々が亡くなり、生き残った人はたったの28人しかいなかった。それだけ大きな津波だった。

○校舎の1階は海拔15mなので、「明和の大津波」と同じくらいの津波が来たら学校は海に沈む。一刻も早く逃げること。

○みんなのご先祖様を10世代遡ると、その数は1024人にもなる。何千年何万年と数え切れないほど多くのご先祖様が長い間命をつないできたから、今みんなは生きている。もしかしたら、生き残った28人の子孫がここにいるかも知れない。

○日本は世界でも地震の多い国。今までの大きな地震や津波でたくさんの人が亡くなった過去がある。

○自分の命は自分で守ることが基本。ご先祖様から受け継がれてきた命を大切に守りぬいてください。

『少なくとも1分以上揺れたら大津波を想像して逃げるスイッチを入れる』2万人以上が犠牲となった東日本大震災では、「逃げる判断の遅れ」が原因で多くの助かる命が津波の犠牲になりました。教訓として覚えておきたい言葉です。

## 「いのちの応援隊 in 石垣島」

4日(木)、今年も『いのちの授業』が4年生を対象に行われました。

この活動は、保育士・助産師・妊婦さんの協働実施により各学校で特設授業が行われています。

授業は、針の穴



ほどの受精卵がお母さんのお腹の中で少しずつ大きく育つ様子から始まりました。それから男女の二次性徴と受精する仕組みや、プライベートゾーン、赤ちゃんが産まれる様子の再現など、自分たちがどのようにしてこの世に生まれてきたのかがドラマチックに展開されていました。また、白保小の卒業生でもある妊婦さんをゲストに迎え、赤ちゃんの心音を聴いたり3人の子の出産体験なども語っていただけました。自分のお腹を痛めて必死の思いで生んで育ててくれたお母さんやお父さんに「ありがとう」の言葉をぜひ伝えてくださいね。

と言う言葉で授業は終わりました。自分も周りの人の命もどれも大切な命であることに変わりはないことを考える良い機会でした。

